特別
ル 4
4876
2

4876
2

東京帝國大學圖書

京都巡覽記 二目錄

清水 付地蔵
六波羅
豐國
大佛
三十三間
泉涌寺 付御寺
御所
同廣業師
新玉津島
八條の天神

二條の城
神泉苑
傾城町
水業師
尼寺
西寺
生門
東寺
南禪寺

京都三十二
清水寺

始めてたうの四村そを約て、中堂よりてこれ出る
八坂塔えんちん寛龍九年四月より寛永五年まで
まわりぐ川は出くらふまでばかりよ金ろこの一こちら
ありあんちんうきこのかりひとりみかりこと
ぐもくむ出ては流れ乃ものにきこうてあ乃者よし居
ありぐうちふ白衣の者なる義ありりかとこ
いてくいりぐとそこに二百貫ものそこの縁ありれ
とあんちんよりあくんぐやうあいい素引りかりひけ
つまぐそ乃内ぐやうえいあんちんよのこもうへふは我

やうぞかしらんぞのかぐやハ山ちの唐うりとこそ
くうつくらいとれとまうさこそして千ものはてゝとた
はべりしとかまうひ京加ようりたまふをのちえん
ちんさやうえいとまうちうの山科のかりにあるゝ
にごやうあいの四宿わりぐこうふりもあくうのさやう
えいい歌言がうの紀貫之の紀貫之のうたとりてう
つとそのあしをたのしく語ハ高天原十二年ハ
軍坂上の田村丸廉ぐうしてさ男唐うりとけハ
あんちんよりひ語ぞたりくのまとゆ語ひて
ぐうくあばし大国こよりはうこうありしいちを
又波を指現ハすかりしい清みるのちんさのなを

知ぬハ月んどのかうりのかぐや姫月ちうりあり
高砂の滝とうふハ山ちくえひえの山ちあり高砂
とうふ山和の山城の国よこそこそあり高さ方よ
高砂山けさまえられをかくこそ
ここすかくろうに今をなくるる　紀貫之
あらの滝清滝うりのちそふみのとをとり川
ちくうこもかこさみ月面の山　若武
右面前清水の高砂の方あり
ひえの山なる音羽の滝とそ
なちの滝清たきのみやしたそ
光よりくうの黒こさ筋あり　忠岑

山神の言葉の事

山伏のそとゝ乃川辺ゟ
おようねあるとのことゝ
千年のちゝひめはゝ
使われせいごゝん
訳者力量義
かゝりい大意大也の
いの〻神あこ意也とゞまるゝ手訳者

たちち
大音乃数のおがつるなりこれ山のわりれあるそ
しはらひやるまんがそ一大乃こゑもそうとく
きこゆまでばおりてちたのあそれなりとあがめて
つ。あ母ち地蔵かうし。ぷいえんまし。おがこ。こ。て
ぶてよ海うでめ。ぷ。ぷ。観音ハたんあい紙あり。ぷ。平部
浦海来像あり。ぷ。東のりこよ亥地上人の像あり。
康乃角とも。そり。ぷ。康角とそ。こをりまりふむ
つ。亥地のつまくとこ。ぷ。ぷ。ぷ。康あり
ひ。ぷ。ぷ。ぷ

ろくさら

あるいは宮大門秀吉と大門神よりくわるゝ社
あり。ゆゑ國大門神の家ハ陽成院の西家筋なり。
いかゝしてハ[illegible]さらくに[illegible]し神とゝ称ふこ
ぎよ免タのゆゑ中ごゝ[illegible]今ハ家ふと
くたりあふく桂ゝそ[illegible]居ハたゝまそゝ[illegible]ふ
かゝれまゝに一ゝひいゝ[illegible]ふ一ゝひいれゝ[illegible]乃
あゝひゝゝ[illegible]わ免ンゲ[illegible]た去ゝ[illegible]ん男ふゝん
ゝふゝしゝわまゝ粉あゝぬ男乃ゝゝせゝゝこか
たゝ社ゝゝこゝあゝものゝそゝ[illegible]ゝ乃家。夕
乃わゝゝぞゝあゝたゝゝゝたゝて見

さてもかの月のかげ
のどかにうつるぞいとおもしろ
しとあしてゆうてつるにつつの蛸蛸が茅のうらかも
今いらっしゃるあなたにあまりひとりぼっちのおの
ひいきりぐらぐらぐら

大佛

大佛ハ秀吉公いこんのもうあるとの事なり
ろくしゃうの秀吉さいこうあるとの事なり
やうかりしゆへ高やくの法しゃくこまのつこ
めしやぐれうの入道なる猫の丸猫ハ秀吉公こ海
つくさの河ごうりのるとたさしひしかの国の人乃耳を
掘りつさこ絶られしゆへ耳掘といふ也

うしろ少し西うひとさしの大佛出
来いうりの人二月耳掘

三十二ぞん

あくいをもて法のはうんつとう。平地たちとり雷りて。
てごうえいあり。しかるに年号八子年千神也ざるく
やうの日たうし宿病悪除ちんぐわんらくとくか
へたうふよこも高海中にてうしは病よりうつる。一時よ平金して命
もの二分こよりうつる。一時よ平金して命
ちゃくえんとえてこふゆへ。ちゃくえんよりと平金るしらひ法号
と得もちゃくえんこうめんこうの也。ちゃくえんの法号の法
ちんつこうあり。しかるに白川の法皇の法
勅しこうひ。ちんけこうえん法と号をあるべきてえひ。ちゃくえん
しまちゃくえん三十二ちんの雲ひこうちのえんこうく

矢ぐとをとりあり。ちゃくえんはこちらとちん
とのそしあり。今北国しは雲ごとうりしちく
つもえけつことうんでちゃくよのあり矢ぐとをとりあり
とをとり矢い雲ひんありくちるとりあるもん
摸隣ひまあり

わらふやうふちんたのこたてうつ
矢りていありとそれいやうひと

泉涌寺

付つまり風呂

さはるハ泉涌寺ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

かくされて出るうわ
風のまに乃花とねたしや是疾風
花ねたむ風ぞてんゆし。そ新緑なせいんし
のまに色そめかるるぞ。ぬくるまの紅葉の
紅乃ぐんぐんとそうんしやうわり乃桃之面くうん
ぬん也。弘法大師乃ひるくせせいうんじ依伯うんゆ
きちんつるう也。ぞる金魚みぐきさ山おうわるぞ
こぐうわまにおりてのらこれるりわりし也

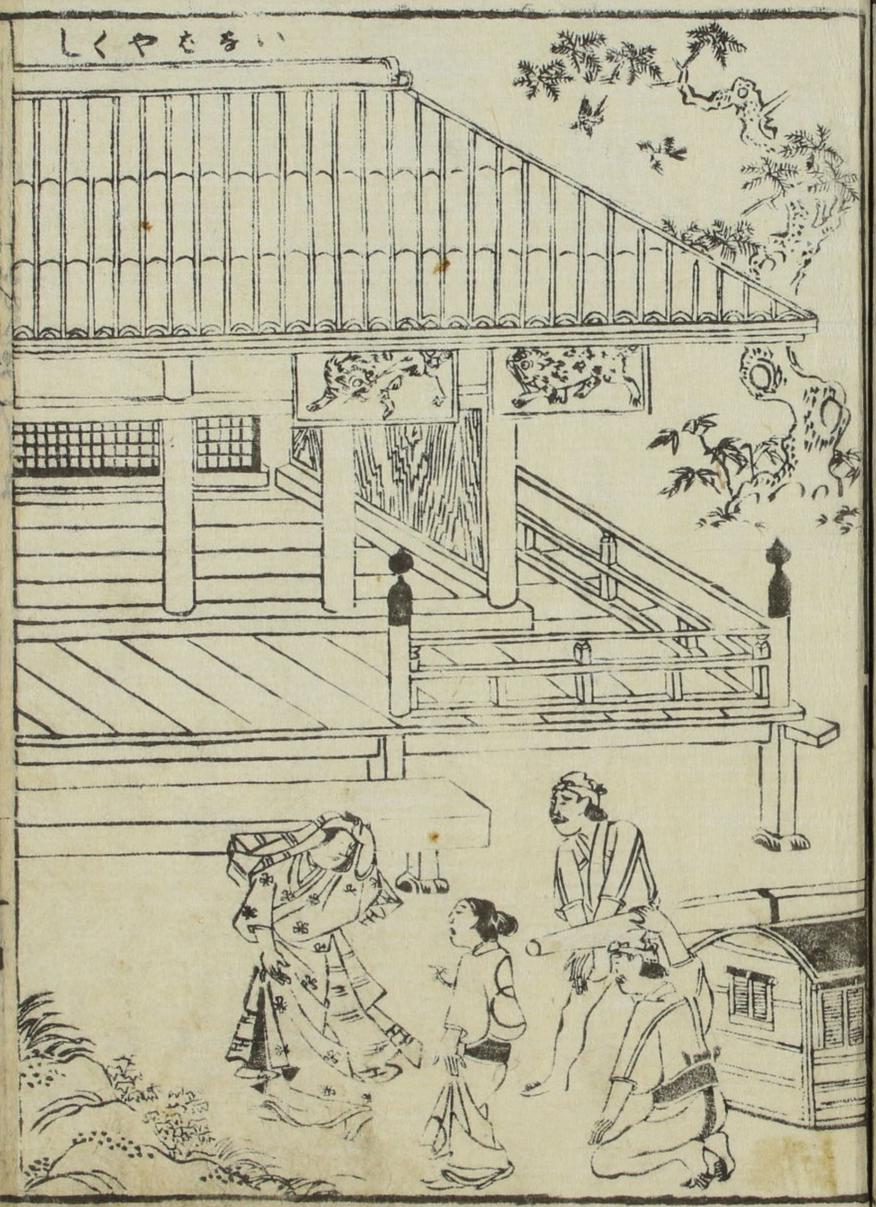
御新雲

五条殿御ぐしうり蘭とおぐしまで乾乃たくぐちの
きりはづしとうたまひ六条殿のかん今八幡ぐに
たゞどうさびしくてかんしてけうあるとてねらせて
京のとゞこさぐ〜とこおがゆまをそてづめの八幡宮
いとかう〜きく〜あぐうしぞれわさるかゆうてあるる
きくは一遍上人乃ひ光わりむしいたんうんごたうせよ
い一遍つこそりとうく〜対ふうはとこづけ弱ひしゆ
いの法りのあやまるもぞ面ちまぐ〜めとうためしよな
つまくり。法華い一遍のかぐれとうけつきねまて極り
の来るよあ〜称ぐそのとうめもあ〜ゆて世のそ

つもしあけまたとあ〜たゆねをこりりふわりのう
ゆ〜あ〜いりのまにやし〜無にあやうりうし免て
たゞりんあるこうりてやこひたりさこれうこうい
さりはりぼうふうよはまようひありぶりこちり世一
物ぐこ姉ようかて法の意。おれう扇のひやうと
そりぐこうこうぐうこうまりぐまんぶやりつつまりやこ
ゆたゞりよ又さありうりあつりの世法とこうれば

扇ひ〜るうこ〜おりて行〜彩まは
こあ〜あいりのこりこあるこ〜ん

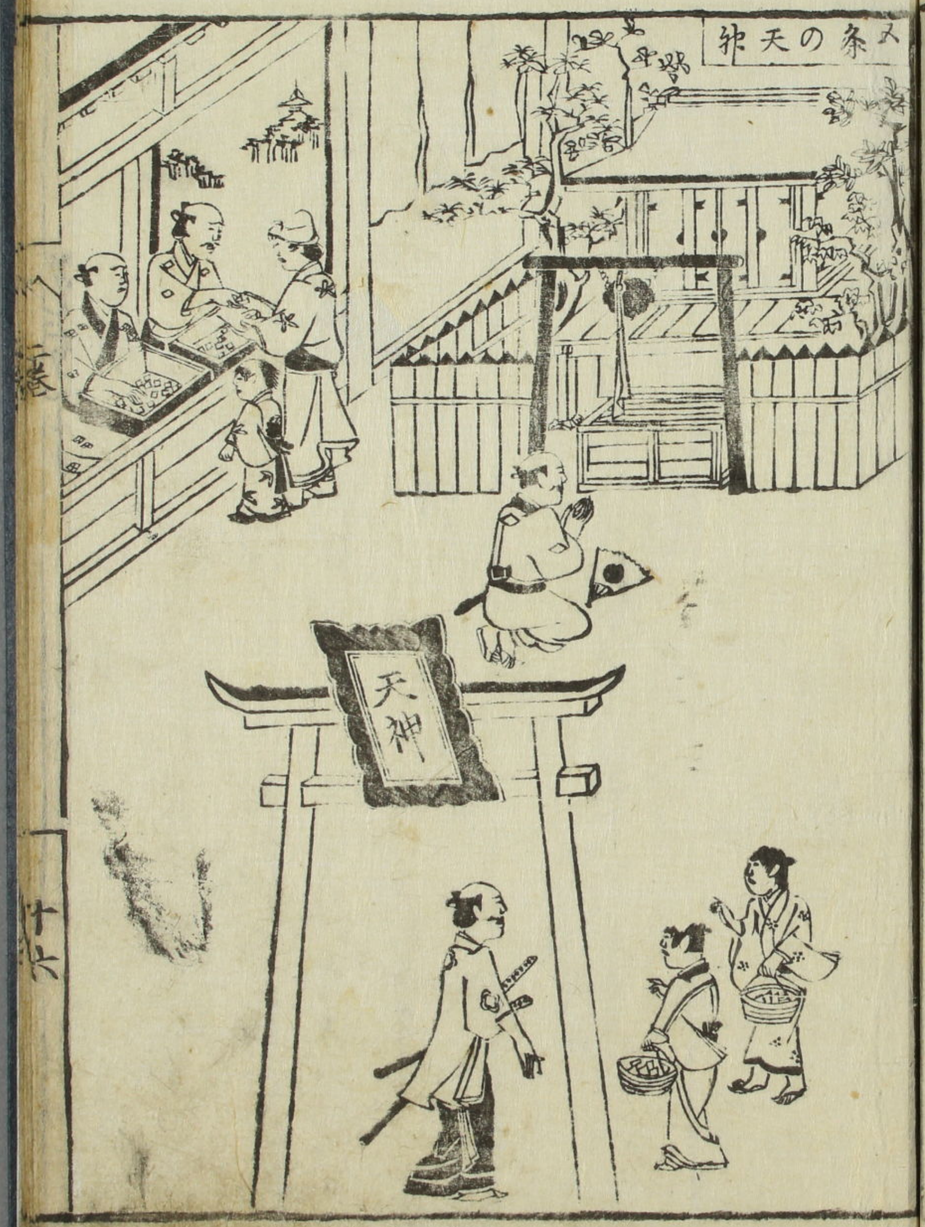
いあでやうく
雅力とゝもかりくゝあれ
とゝろくゝ光源氏のうまこゝろを
をたゝひしとぴ酒勇よりうまこゝろ
にのをてまつくをつだそうれよかのぐ見てこうひ
しれ車うをしぴわくこゝとくいわしとゆう
しきあぐくくひとをして茅師の来よ海
うでわるそくくしぴ来いらかでの園乃海恵うと
わとふはぐ勢たまくるくぴくくぴくくぴ海ゆきをば
ねろそうにわんぢすくきわあくぴ碁ぐんのうらいく
つたそまうりしぴそれと中納ぐん約年山記う



ほうこうてまつるもあれば見の目うかくら
を浴ひぢ〻蓑ごん乃目を海もうとたまへ〻ぢみくるこ
かくぢ目乃ろろひとりやーてたうべうとうけさ
ムてあ〻もくいのうたてまつるこれ必ずこの死むか
しうこんぢやまひうのあくうわるけるこれ年
霧の面目おもうるやうの本目うれ
又今狂歌
蓑ごんなる夢仰いのるよ海ろうも
あげたる濃とうむやまと平

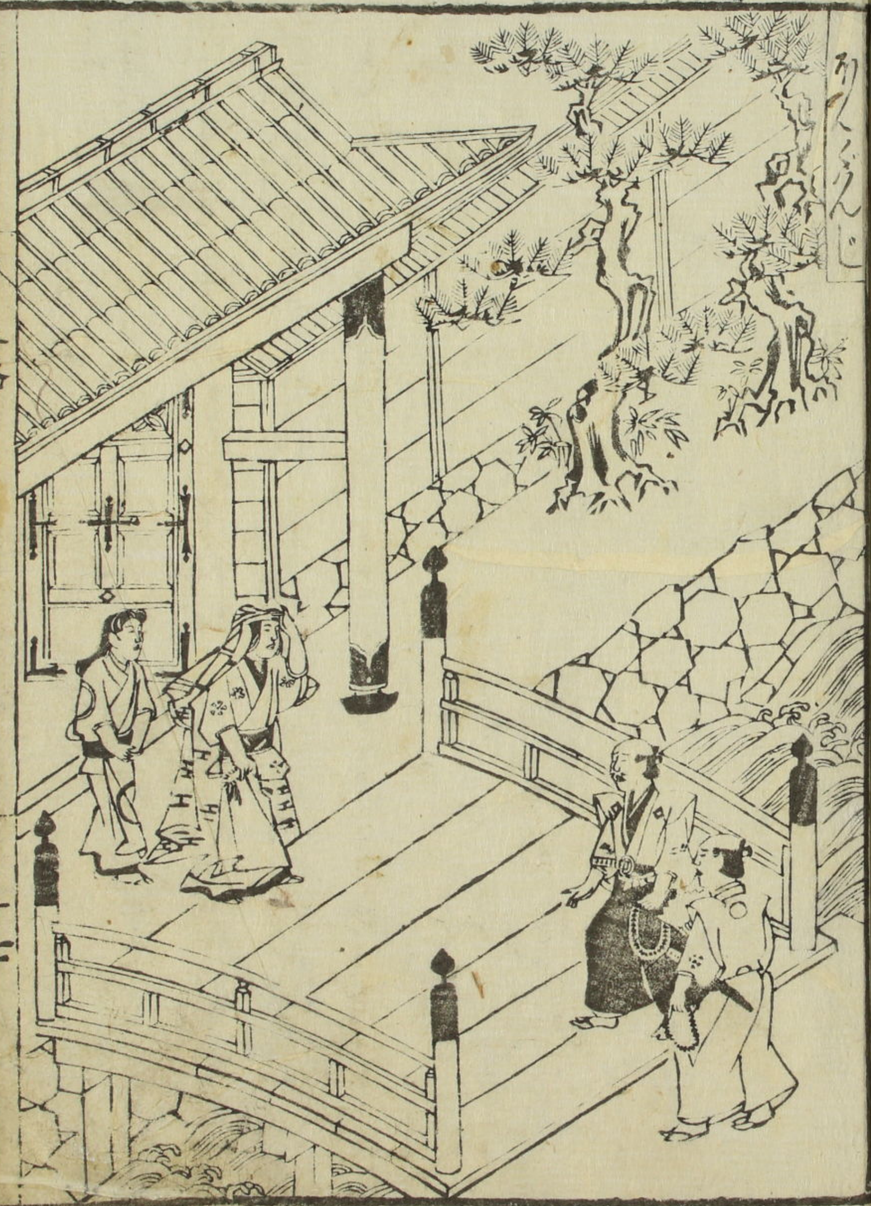
新玉津島

山口神のやしろ和とたまつ今まつ通信九
行〳〵八町 西ゲと高〳〵にまつ海と迎たくう
まそ和のまばまりふまつ芝八紀易玉津島の明
神とゑ条のこ住倭姫やはゆ山ていこうんしやうどくこゑ
若ちくしの住海の明神八和方のやる神や九茶こん
宮のこさうに衣通姫といふ井をる迎
和歌を神祇 今あくにうりをしたりさこを井ノう明
りこれ和この玉つ ま姫 住吉明神
すきとを和霧の月や玉津島



北野天神

北野の天神とゆ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ



りんごうじ

かりて

京西たごひまあめごたくれあさぷをいわるそひ
あくまのあれぶ今まれごとれ乃つぐ世まごい
ひあんや。ちんらんのはたつうと行そうれ
ぷうこうはとうてぎそんのうちり

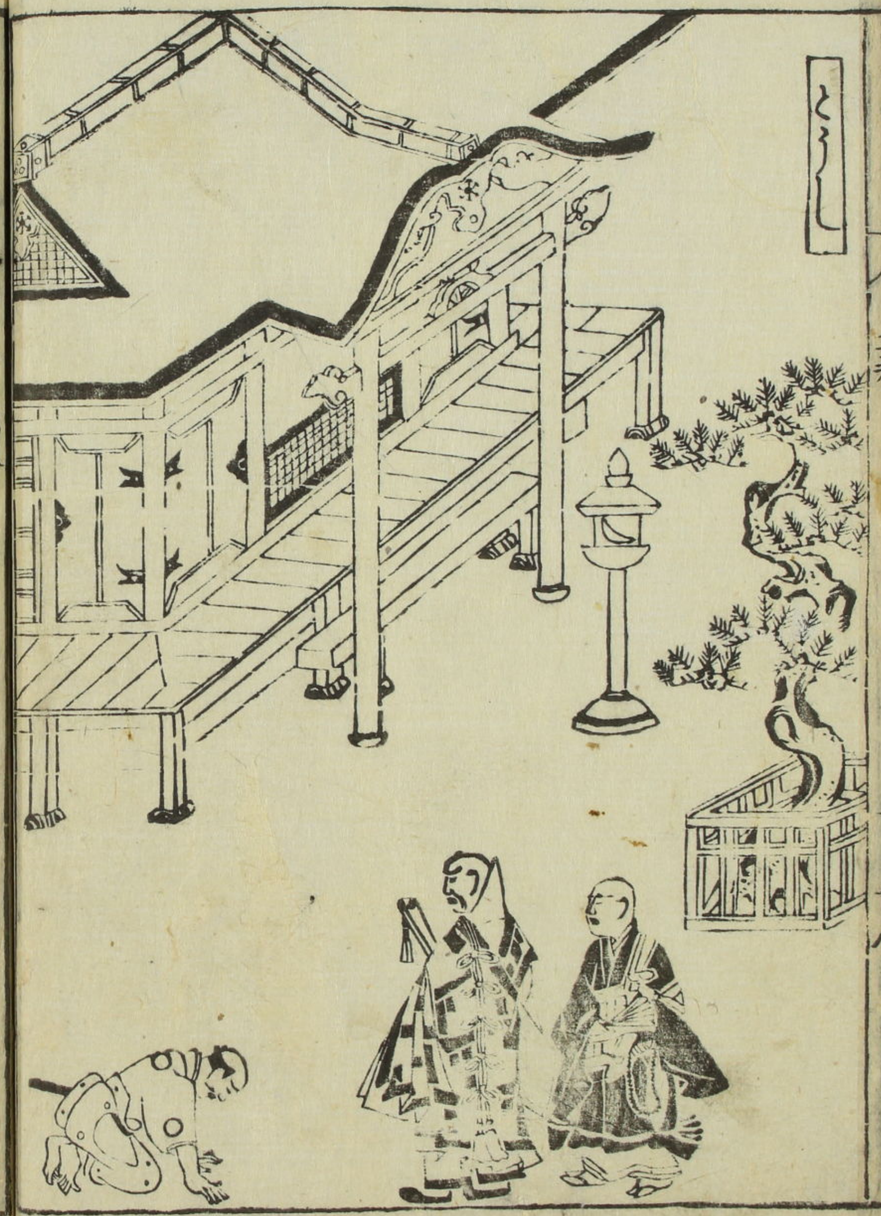
相とうぐ花や京ものと東海

南もの

南もの弘法大師ぞうの像はぞうこうきざみまをさせ給へ
しぬぬまへなりの杉とこと柏乃杉とふかぶる野山よりぶもの杉ハ稲荷乃杉
とゝふべきまをぬぞう雄ハ乃杉ありさてこゝの仏とゝ
ちゝとゝふりゝ南面指接ぞゝふてこゝる野山ぞゝる
の仏殿ありとゝいひ乃こゝろわゝめゝ法師乃官ふ
もとゝゝぬぬぬ弘法大師寿数とゝいのりぬゝそ
ひありし時たゞひゝ池の更きゝぬゝれハ法ぞりこゝ
てこのゝゝとゝふ魚とやうをゝの魚とゝ見ゝよたゞゝ
ちゝしきゝそゝうけぞゝきあゝふぢる数ゝゝゆゝゝさ

てこそ弘法ゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝ
法ゝゝゝゝ法力ゝゝゝゝゝゝゝゝ
数ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝをゝゝゝゝゝゝ

南よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



雑生門

大内裏の内乃南門也軒先乃あらてはてこるゞの
縁て保匠あるゝそひて屋たいゝぐんゝ志るゝの札
とて縁乃まうりしし家ゝひゝ又ゝ記者ゝい
あゝ乃ゝ乱ゝて風新柳の髪をゝづゝとゝいゝ白紙
りゝ名ん素乃白いゝぐあゝもんゝあんゝぐゝろ時は門
とゝとゝ行ゝに門のゝゝゝり張さゝて八張四美の
ひけとあらふゝとゝつゝぐゝうゝごゝしあゝ花をゝう屋神
乃白なゝと

むゝゝゝひてあゝこゝろ門乃いゝあ一八
かりゝゝ屋乃をゝぐゝ点あひ

西ちの志ものひんぱ

これ志ものゝ名ゆゑ也ぢぬけ物の数

しりひきのく芳よりうさ蜂のとりあつ

しり色ぶ蜂のたまちるづりてぢまい寺毎場

しくんとりひ出しん人しまれくあり

ちのびんつぎを

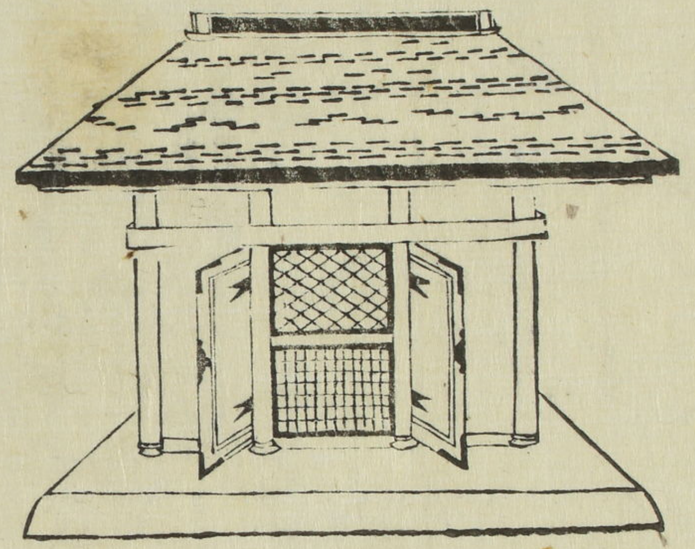
芳し絵を細やよりかくん巻の女

大通ちまもりて云

ちはやぶるうぢやんの関守のふちうこうのこめのまと
ふくのこ三代やうぐんさまひもとこのうぐいすこう海
まそれ有りしうるぐ志ちやうぐんあおりをたまひて
のうちゆもくぐつをれたりたまひこのあるこすら
きられりしゆへわまちしふりうこ世よりぐりの
かうよゆへうりや大通ちまもりふりうぐりのぞやし
和そそ非やうん

ちるわくいけふわまちやせ郎毛

あまてら



水屋

清盥(きよりゆかだらい)入(いれ)浄瓶(じやうびん)杨(やなぎ)つゝ

これあり。ゆ屋(ゆやの)ものは、ゆ湯(ゆ)ばかりあり。

しかも、ほとんどあり。さて、ゆ屋(ゆや)は、ゆ湯(ゆ)

井の間(あひだ)ばかりあり。ゆ屋(ゆや)のやうひとわ

ら入(いり)さざらくいふ。ゆ屋(ゆや)のまへ、ひよの丸(まる)

わらくはとあり。その人(ひと)くはまことぬきんで

いのもの。ぶとせうよりゆ(ゆ)ごとた先(さき)ありとろ

ぢ。ぐべさめ(にまら)ぬ。

胸(むね)たゝく火(ひ)ぞ。てやわらむわやて

傾城町

むりはぶ二筋町として六筋ありしをぜんせわ
あるごとりまくふうつきれて。空腹よりかことにかいつる
まりかりしかをきれ。ちかのごとし。嫌よ秋来月月
多海田しく雅澄が初とおもふ人へあるこうや。さ
主人ひさとて色このあるへ人へ知るかあるあるミ
どこびわひとろまはしてきこはあしとぶ里し
恐人をるべ。それ傾城傾国しいまのあるよ。
遊史よりんしたり。李白ぶ秋よ小方ある。種人絶
世而楊玄一顧飛人城再顧飛人国これ傾城
傾国といふ乃れこうあるとぶるこうはは虞氏

楊貴妃は玄宗の御
いもうと虢国の内侍の所の酒乃人
乃相源ありぬ。あ[illegible]
あ酒の猿人りて電をらし
今あくあくよ極楽
ちかうくるとて七年
りふ生とかくらんや。
とさそふとも生ま
花乃ちらもぬ。ふりう
のいるをりけるごと
けふの生あまさしそ

うりたるむとりの栗風おりつまて行人ふ
ありうにうりぬ。それがむ免ん者とうりうにうり
芋。やあるごうえごうりうせ。ゆ[illegible]ごたのうを
へ。ゆ[illegible]の月あ。たの音をこ免ん[illegible]
くこかくんぬくうりい[illegible]きかくこふ。清美の煙も
たのまんぬ。そ[illegible]ぶ孫あ[illegible]
ゆて電こうまりうん乃むさ乃こさよ
帝こいへ生数書とあけくれわうう
うふ極来へみぐうあけくれ悪あこれ
ありぬ。かぐりいうきたりれあはぬ。そこうきあこひ
とうて。鶴書の書はうきれちふまうとつぐ堂書

ありてにわまに堂てうしてこれを海こしにとるあと二生まれて
やらんとしてそのあるじ生まれかぐやひめとなりて野山
をきけばおのがさまざまの川のうつくしうかうばしく
今うこれわりさしハこれどもその名をきゝわもわ
つぶのうちひろんはをうてるまこどもそのうちを
いかづちんざるあれいづまとわやめて一ふまろひとよ
のこみそやあらうあまとうあるこの神あるどてうう
乃らざりとわりふうれあまこまぬはとれて
とろうあるしさうれたうきかぐしてやこうたりの
ふ生まれば一河の業をうう一生のあげきとまるてわ
もりの川乃沖のあるこうあるまうあるはのと

が孫てうもうく老弱のあるとあるひたりやとの
里乃こんとうこうあるまこあるまこ掃の宮しゆうた
めまてこまのびの畏のこうあまうまこうあげくこ
がうまこはつあるこうあるこうあるこうあるこうあるこ
われ為とうまこうあるこうあるこうあるこ
とこいあるこ来のまあるこ波こうあるこうあるこ
もうこうあるこ為とあるこうあるこうあるこ
しの為あるこ命とあるこ命とあるこ
こうあるこうあるこうあるこうあるこ
を海りたる為こハこうあるこうあるこ
ハつまあるこ命とあるこ命とあるこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花ゆたらう
二巻
廿六

二巻
廿七

玄生

椿の森とぞいふなる。玄生は堂よりはるばるとまうでけるぞ。
くしはかるいとなく、のちぐうの遊興あり。
しゐむりんの武蔵の国の住人、香匂新九郎つる童
をつれて、この所にまうでゝ、ひとたのもとうけ
たまはりぬる。注師一人あり。せてこ
ひとりの童をよのつねしらるるはやうのものとうけて、
かのふるまひ、さもあり。ひとりの僧、けうぐうして
ひとりんとうちよりて、法文神通方便力自在
結願の縁、いつまでとうけたまはるぞ。そこ
のごとく答ひけるぞ。おのれとうけたまはれば

の人、数は雲のごとくなる童をたづねあつめ、
つねのごとくに、なる童をたづねぬまでに、
とうりんとうとうるへ、ものくるわ地蔵のゆゑ、
ようをその間、なる童をようて乃人としてと
ものしかるべきひとりけり。ぞうあり地蔵ゆゑ
法師のゆゑとうこうて無乃つきたるかこゝろ
てはりまつりたれば、せその人、あ中、法師
とたくそこにつまり、先。つめろうよりまことさ見て
こゝろこゝまるもゝるうるに。乃ろにろうとぬを
て物てゐ。ぞうにおとうとひみぶの堂にさそ
ぞとひたれそこのあるもちぐうゆさ

川の四郎うまれてありけるとき
あ〜たらうまれもひぐらあくえんあぐ〜徒過み
あひたてまつりてせその人数もそぐつもさこ
つまそびきをそ〜ぢ毒のをりりりそりおつまぐ
たきはあるかりくうそうもつ〜しぐさし

ありあをのつまあさ丈ぶもの孫ぐんしり
きやうぐんやぐおうくものあり〜妻雑祝

神宝記

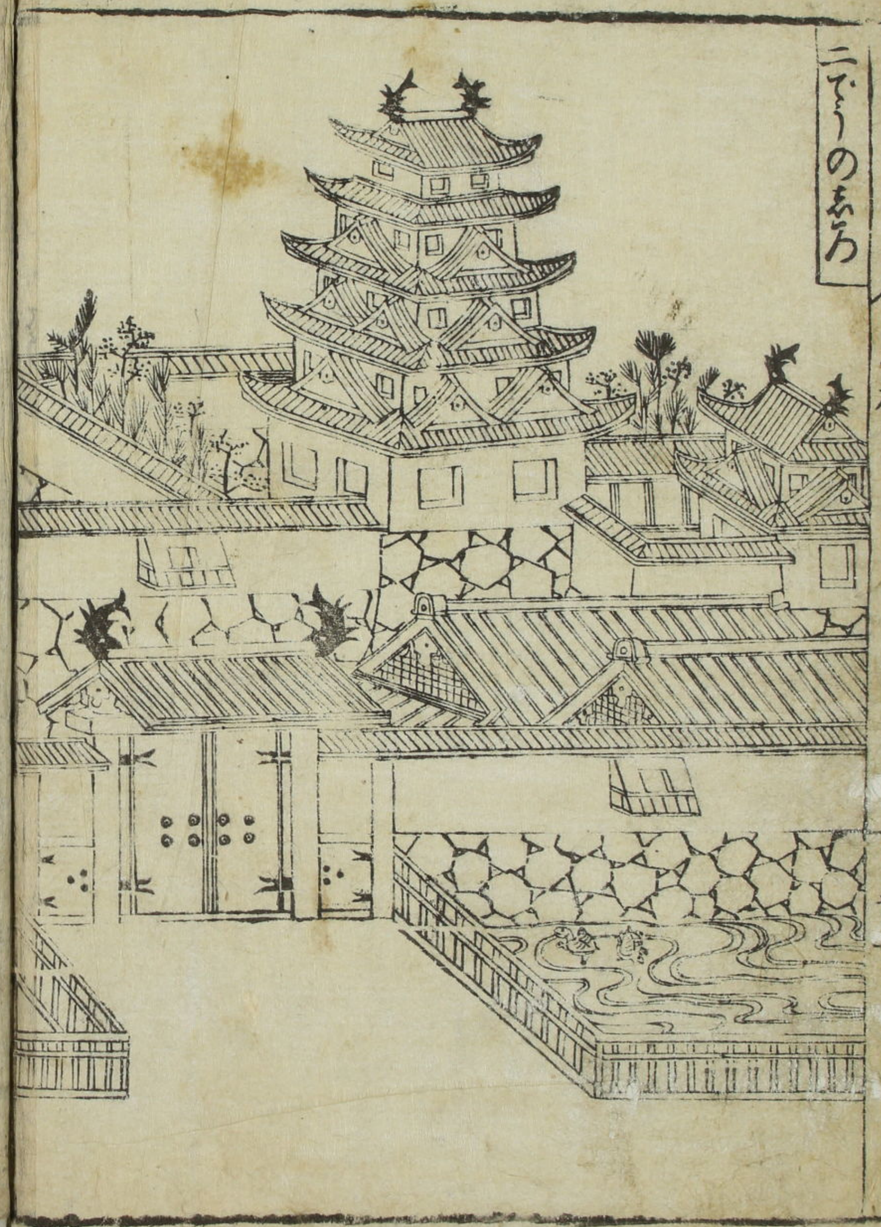
天子は紫宸殿の西やぢり神竜あり。山花よぞん
どさうれい西もみは山西わよいのりとおろにうちま
ちあそぶつもぞうこ紫まーいつよたるどプ西月うり
高ぞ流うそうん 神おりとさ山西よあり てや成
あぐるも法成統のいつけりといふ山花あり。いそゆる
今のさぎちやうれまーいぢ義一統よ西城う中
撃へ紙書のうそうち向信仏の書をたるうつ
こうて出とうけ左の義も ろろいつまーよさ義
ちやう左度ちやあ中やーいつて伝統あり。と
一統とあまーとおがくーもぢつ神宝記のう

とりんてて左義出のまーとうりくあっさんへ
の信部ちやらんの書たるべープ渡るのみ伝
うありーもぢ山西りてありぞよゆう渡人の
時こぞとそーあんとあり先ーあるう。
こぞうんでうりぢまへに西ーまに人へ神宝
ありとのさまへ渡り山度へたりうりてまにさ
ぶ。こ向又伝とドうれーこ也

又伝渡るいこそみよあけの花衣

ゆゑ
ちいさ袋よりまつ海ハ彩よ代ものれバでん
ものもたやすくとりかへていよく
ひとりの場のぞくづゆんて
あと第蔵とうげ。関白安堵のたのもの
ものまたくこのまつ民を賜をゆづりあひまこと
とり武蔵長久天下泰平この河地ぞ永わう
にて数句をぞれ申し

のうけさやかんこ代蓄て髪夫金
あまこうてしめてたくあるあ嫁郭乃
ゆりよどう亀つく代色ねしん


二でうのまち

二巻